

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立町田高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成
副校長、経営企画室長、総務・広報部主任（主任教諭）＝事務局長、事務担当 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、総務・広報部主任、調査研究・研修部主任、ICT推進委员会主任 計9名
- (4) 協議委員の構成
保護者代表（PTA会長）、同窓会代表（同窓会長）、地域住民代表（町田市青少年健全育成町田中央地区委員会副委員長）、近隣中学校長（町田市立第一中学校長）、有識者（大正大学、拓殖大学、東京都立大学）3名、関係機関等（町田市教育委員）名 計8名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の開催
 - 第1回 令和4年6月21日(火) 内部委員9名、協議委員6名
協議委員の委嘱、委員紹介、学校経営報告、学校経営計画、学校評価アンケート結果、各分掌の現状と課題
 - 第2回 令和4年11月11日(金) 内部委員9名、協議委員7名
学校評価アンケートの質問項目、第2回授業アンケートの予定、各分掌の現状と課題
 - 第3回 令和5年3月8日(水) 内部委員9名、協議委員5名
学校評価アンケート実施報告、第2回授業アンケート結果、内部委員からの組織目標に対する成果と課題の報告、協議委員アンケート
- (2) 評価委員会の開催
 - 第1回 令和4年11月11日(金)
学校評価アンケートの設問内容
 - 第2回 令和5年3月8日(水)
学校評価アンケート実施報告

3 学校評価アンケート

- (1) 学校評価の観点
学校経営計画の達成状況を学校運営、学習指導、特別活動、生活指導、進路指導、保健指導等
- (2) アンケートの対象及び実施時期

対象者	対象者数	回答数	回答率	実施時期
在校生	938名 (①320, ②308, ③310)	702名 (①290, ②188, ③224)	74.8% [97.1%]	12月
保護者	938名	674名 (①266, ②226③182)	71.9% [83.5%]	12月
教員	51名	49名	96.1% [98.2%]	12月
来校者		132名 [実施せず]		12月

※令和4度は学校説明会での来校者を対象に実施
※保護者はClassiを利用した回答582、紙回答92

(3) アンケートの評価項目

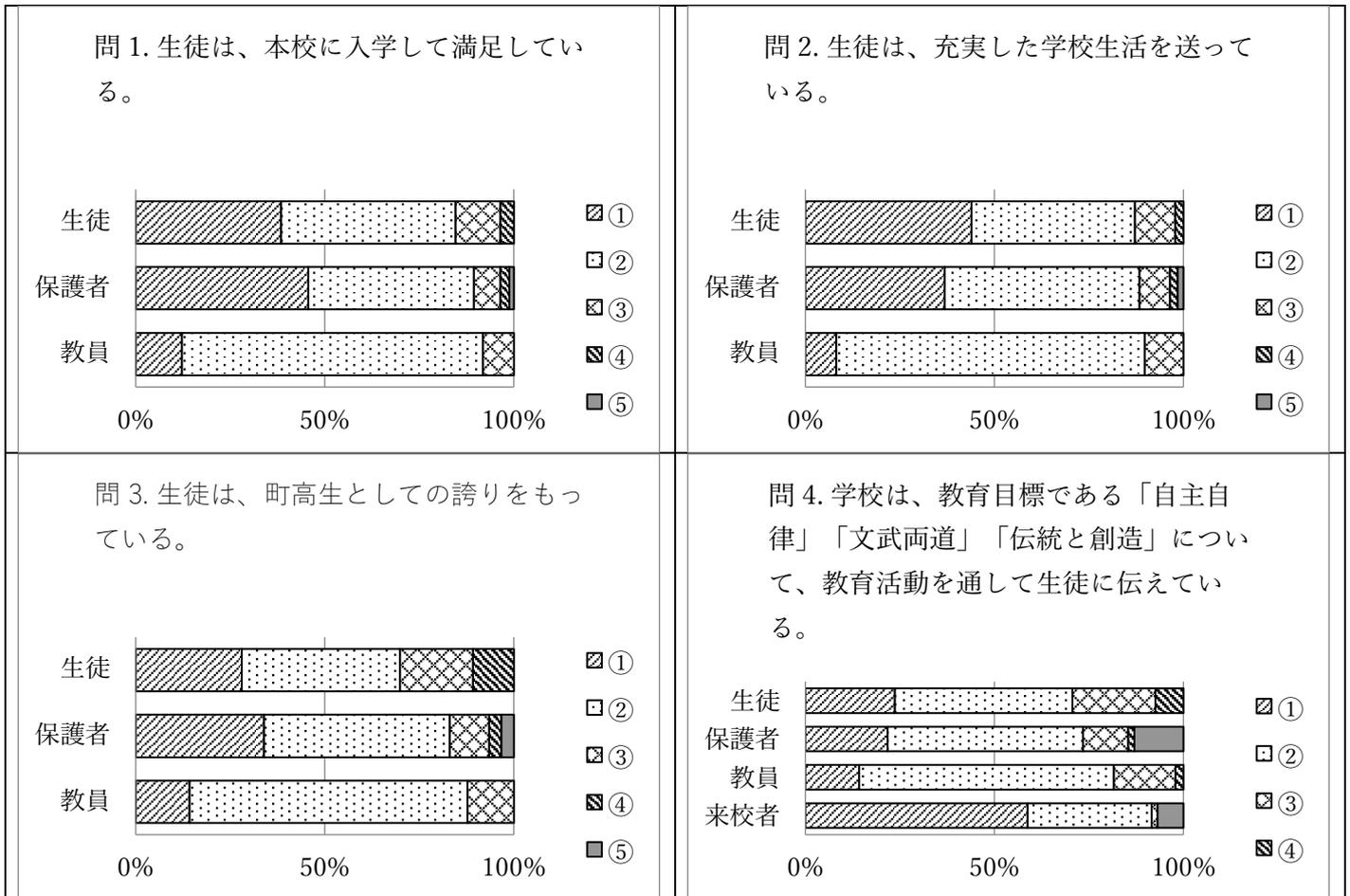
- ① 学校運営 入学満足度、学校生活の充実度、町高生としての誇り、教育目標の伝達、施設設備の整備、働き方改革の取組(教員及び一部保護者対象)
- ② 学習指導 主体的・意欲的な取組、個別最適な学び、協働的な学び、ICTを活用した教育、評価規準の明示
- ③ 特別活動 学習と特別活動の両立(文武両道の実践)、学校行事を通じた個性豊かな人間性の育成、部活動満足度(充実度)
- ④ 生活指導 いじめ防止に対する組織的な取組、体罰・暴言のない指導、安全指導・防災教育の実施
- ⑤ 進路指導 第一志望の支援、進路情報の提供、補習・補講の開講
- ⑥ 保健指導 衛生環境・清掃状況、教育相談の環境整備、健康管理指導

(4) アンケートの結果

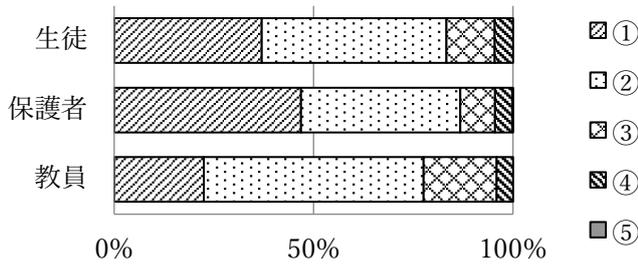
問1～問24 生徒・教員は4段階で、保護者・来校者は⑤を含めた五つの選択肢から回答する。

① そう思う ② だいたいそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない ⑤ わからない

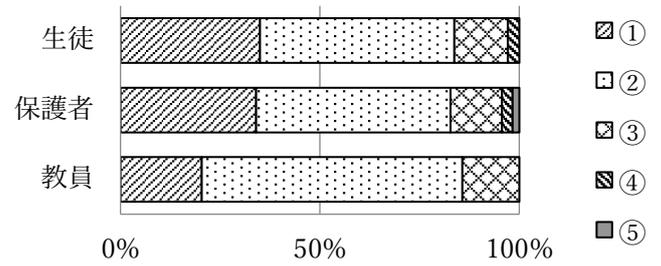
※ 問23と問24は、教員と保護者(PTA運営委員会参加者)を対象に実施



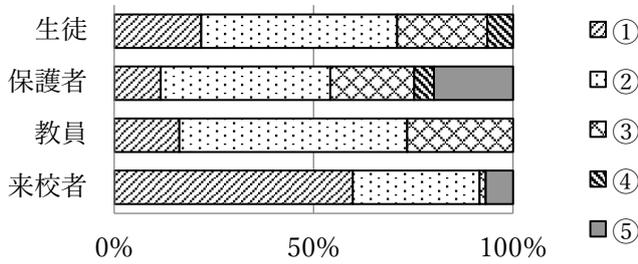
問 5. 生徒は、学習と部活動・学校行事等との両立に努めている。



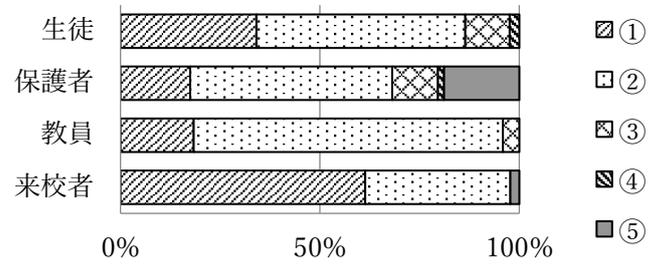
問 6. 生徒は、授業や学習に主体的・意欲的に取り組んでいる。



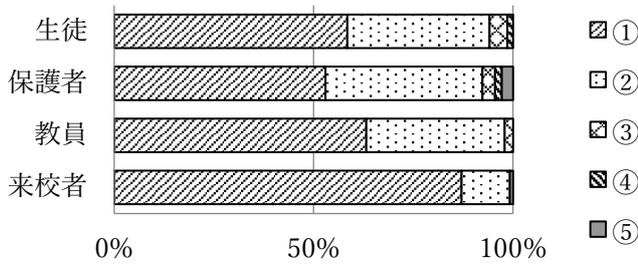
問 7. 学校は、「個別最適な学び（生徒一人一人の能力を伸ばす教育）」を行っている。



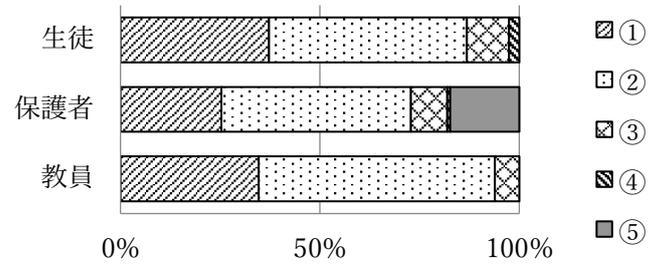
問 8. 学校は、「協働的な学び（対話的な学習や討論・発表など）」の充実に取り組んでいる。



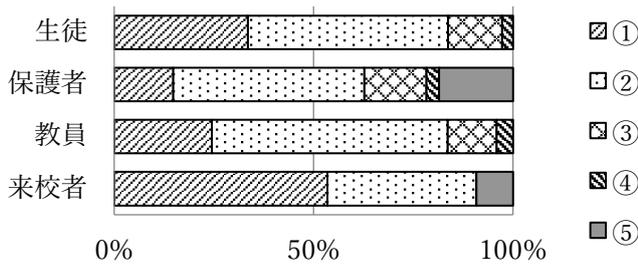
問 9. 学校は、iPadやClassi・TeamsなどICTを活用した教育に取り組んでいる。



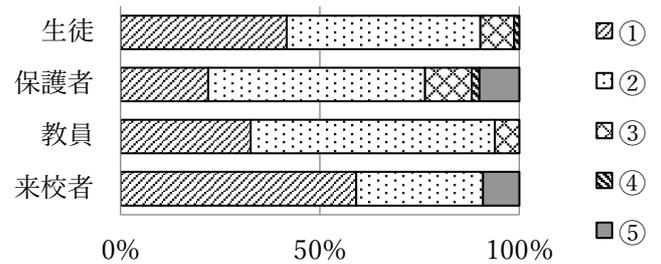
問 10. 学校は、生徒に各教科・科目の成績評価の規準を示している。



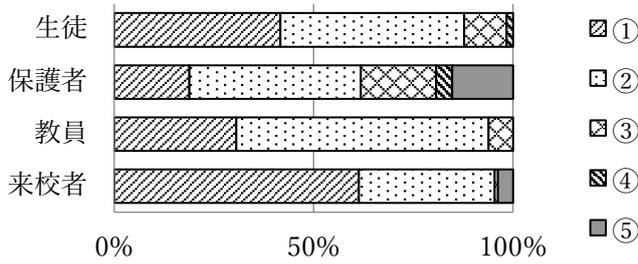
問 11. 学校は、生徒の第一志望の実現を支援する組織的・計画的な進路指導を行っている。



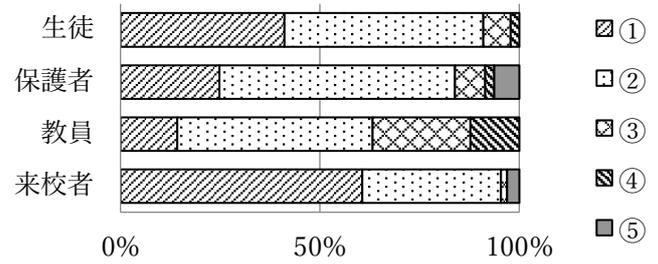
問 12. 学校は、進路に関する情報を適切に提供している。



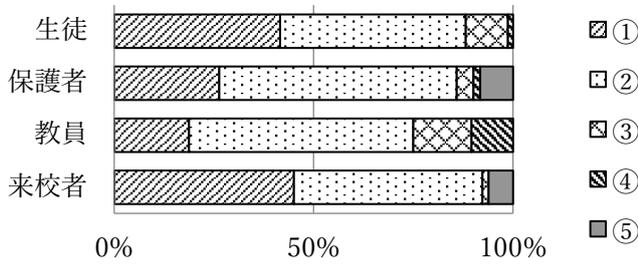
問 13. 学校は、生徒に必要な補習・講習を開講している。



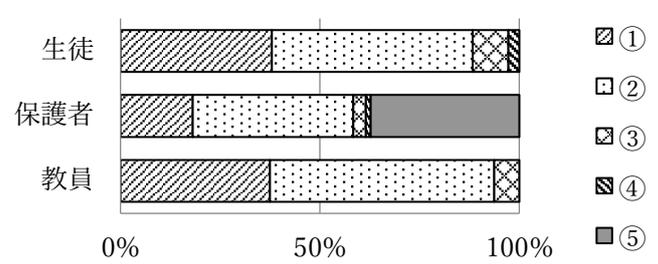
問 14. 生徒にとって、学校の施設・設備などは整っている。



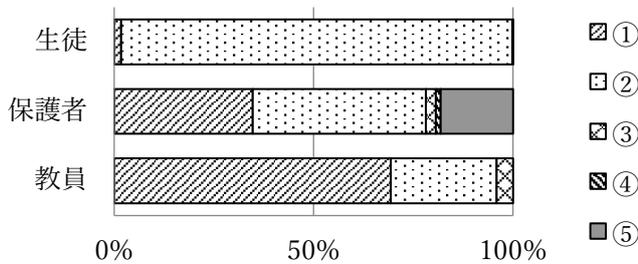
問 15. 学校施設内の衛生環境・清掃状況は良好である。



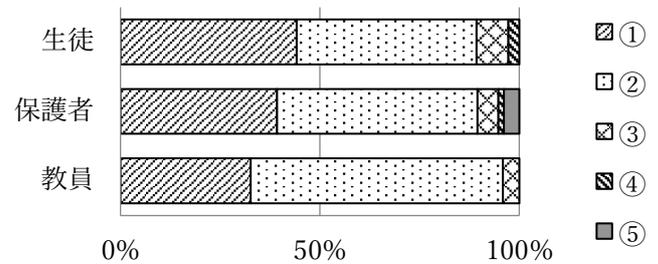
問 16. 学校は、いじめの未然防止や早期発見に組織的に取り組んでいる。



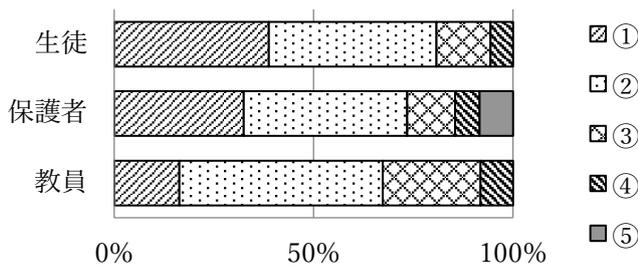
問 17. 学校は、体罰や暴言等のない指導を実践している。



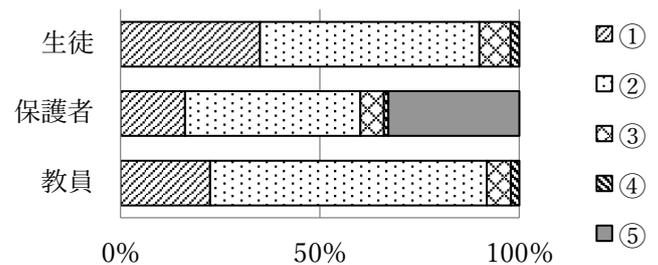
問 18. 生徒は、学校行事を通じて望ましい人間関係や個性豊かな人間性を育てている。

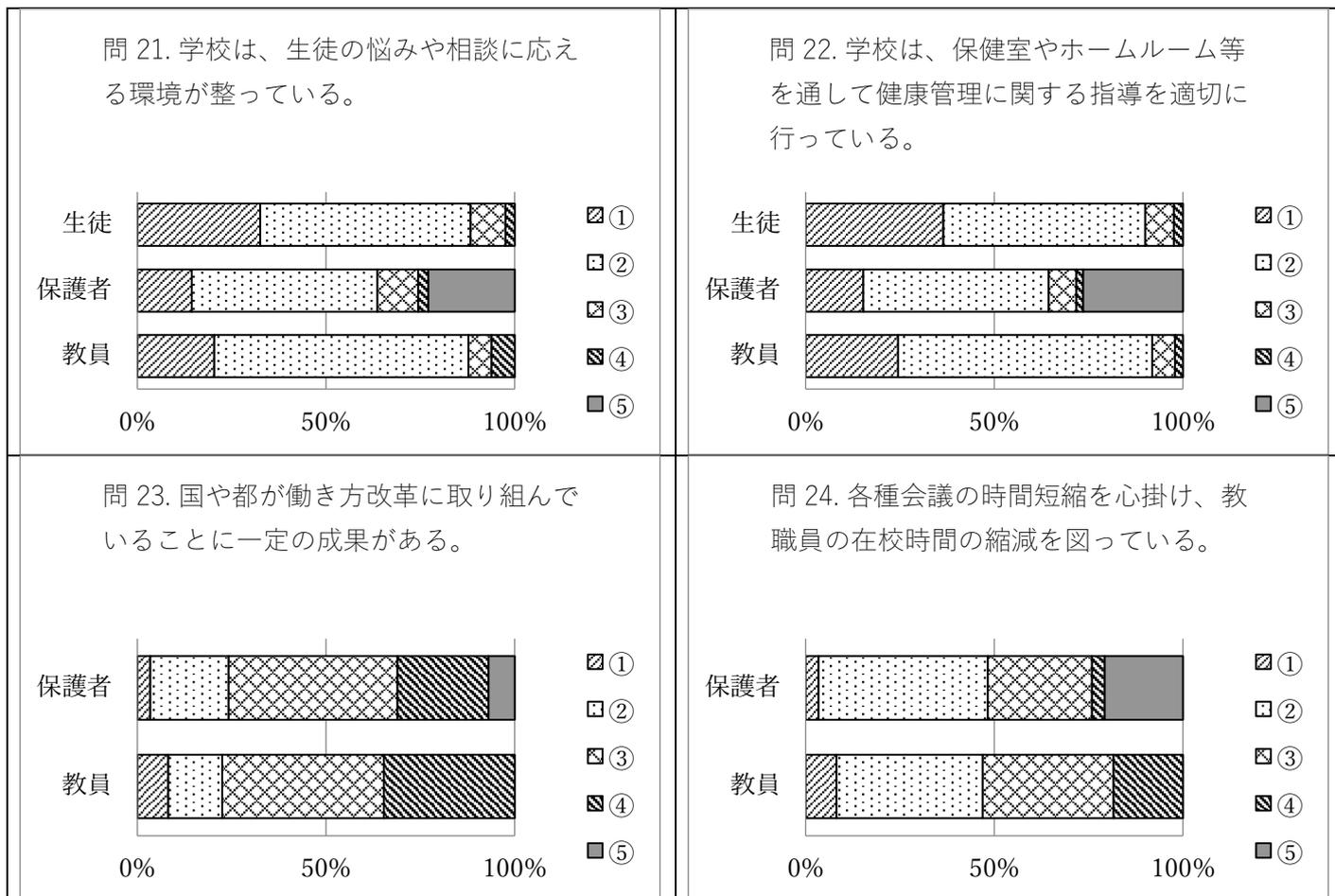


問 19. 生徒は、本校の部活動に満足している。



問 20. 学校は、交通安全指導や防災教育を適切に行っている。





(5) 結果の考察 数値は肯定的な割合〔昨年度の割合〕、《保護者・来校者の「分からない」割合》

① 学校運営

- ・「入学満足度」は、生徒 84.6%〔77.3%〕は増加しており高い。保護者 89.5%〔89.5%〕、教員 91.8%〔-〕もともに高い。
- ・「学校生活の充実度」は、生徒 87.2%〔-〕、保護者 88.4%〔-〕、教員 89.8%〔-〕 いずれも高い。
- ・「町高生としての誇り」は、生徒 69.9%〔-〕に止まっているが、保護者 83.0%〔-〕、教員 87.8%〔-〕はともに高い。
- ・「教育目標の伝達」は、生徒 70.6%〔65.1%〕、保護者 73.5%〔-〕にやや高い程度で止まっている。教員 81.6%〔70.9%〕は増加しており高い。また、来校者 91.6%〔-〕は非常に高い。
- ・「施設設備の整備」は、生徒 91.0%〔-〕及び来校者 95.5%〔-〕は非常に高く、保護者 83.9%《6.3%》〔-〕も高い。教員 63.3%〔-〕はやや高い程度に止まっている。
- ・働き方改革の取組に関しては、「国や都の取組成果」は保護者 24.1%《6.9%》〔-《-》〕、教員 22.4%〔-〕と低い。「在校時間縮減の取組」は、保護者は 48.3%《20.7%》〔-《-》〕、教員は 46.9%〔20.0%〕と増加傾向にあるが、ともに半数に届いていない。

② 学習指導

- ・「主体的・意欲的な取組」は、生徒 83.7%〔73.6%〕、保護者 85.7%〔-〕、教員 82.7%〔-〕と、いずれも高い。
- ・「個別最適な学び」は、生徒 71.0%〔-〕、教員 73.5%〔-〕と、比較的高い。保護者は 54.2%《19.9%》〔-〕と過半数に止まっている。来校者 91.7%〔-〕。
- ・「協働的な学び」は、生徒 86.4%〔-〕、教員 97.7%〔-〕と、高い。保護者は 68.1%《18.9%》〔-〕やや高い程度に止まっている。来校者 97.7%〔-〕。

- ・「ICTを活用した教育」は、生徒 94.2% [80.2%]、保護者 92.4% [84.7%]、教員 98.0% [81.8%]、来校者 99.2% [-%] いずれも非常に高い。
- ・「評価規準の明示」は、生徒 86.9% [-%]、教員 93.9% [-%] と、ともに高い。保護者は、72.8% 《17.3%》 [77.2%] に止まっている。

③ 特別活動

- ・「学習と特活の両立（文武両道の実践）」は、生徒 83.3% [72.9%]、保護者 86.8% [-%] と、ともに高いが、教員は 77.6% [74.6%] と比較的高い程度に止まっている。
- ・「学校行事を通じた個性豊かな人間性の育成」は、生徒 89.3% [-%]、保護者 89.5% [-%]、教員 95.9% [-%] といずれも非常に高い。
- ・「部活動満足度〔充実度〕」は、生徒 80.8% [-%] は高く、保護者 73.5% 《8.1%》 [72.1% 《-%》] は比較的高い。教員 67.3% [-%]。

④ 生活指導

- ・「いじめ防止に対する組織的な取組」は、生徒 88.3% [-%]、教員 93.8% [-%] と高い。保護者 58.4% 《37.3%》 [-%] は過半数に止まっているが、分からないという回答率が非常に高い。
- ・「体罰・暴言のない指導」は、生徒 99.9% [-%]、教員 95.9% [-%] とともに非常に高く、保護者 78.1% 《18.1%》 [-% 《-%》] も比較的高い。
- ・「安全指導・防災教育の適切実施」は、生徒 90.0% [-%] 及び教員 91.8% [-%] は非常に高く、保護者 60.2% 《32.8%》 [-% 《-%》] に止まっている。

⑤ 進路指導

- ・「第一志望実現の支援」は、生徒 83.7% [-%] は高く、教員 83.7% [-%] と高い。保護者 62.8% 《18.5%》 [-% 《-%》] はやや高い程度に止まっており、分からないという回答が一定数ある。外来者 90.8% [-%]。
- ・「進路情報の提供」は、生徒 90.3% [90.4%]、教員 93.9% [78.2%]、外来者 90.9% [-%] はいずれも非常に高い。保護者 76.4% 《10.0%》 [74.2% 《-%》] も比較的高い。
- ・「補習・講習の開講」は、生徒 87.7% [77.2%]、教員 93.9% [74.5%] は高い。保護者 61.9% 《15.2%》 [64.0% 《17.8%》] はやや高い程度に止まっており、分からないという回答が一定数ある。外来者 95.5% [-%]。

⑥ 保健指導

- ・「衛生環境・清掃状況」は、生徒 88.1% [-%]、保護者 85.9% [-%] 高く、来校者 92.4% [-%] は非常に高い。教員 75.0% [-%] はやや高い程度に止まっている。
- ・「教育相談の環境整備」は、生徒 88.3% [-%]、教員 87.8% [-%] は高い、保護者 63.6% 《22.9%》 [-% 《-%》] はやや高い程度に止まっており、分からないという回答率が高い。
- ・「健康管理指導」は、生徒 90.0% [-%] 及び教員 91.8% [-%] は非常に高い。保護者 64.4% 《26.4%》 [-%] はやや高い程度に止まっており、分からないという回答率が高い。

4 協議議員からの意見等

(1) 協議委員人数 8人

(2) 「学校がよくなった」と考える協議委員の回答（人数）

そう思う	多少 そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答

(3) 協議委員からの意見

- ・保護者の自由意見に目を向けてみてほしい。
- ・学校として生徒にメッセージを伝えられているのか。
- ・組織的な力が弱くなっているのではないか。一致団結をするような力が少ないのではないか。
- ・課題(宿題)が多すぎる問題など、子供たちの教育に対する意識が高いからこそ、原点に立つ時期に来ているのではないか。
- ・長く在籍している先生からの話を聞いたり、学校の組織力を上げることに注力したりしたらいいのではないか。
- ・子供達の生活の様子がわかるように、情報を発信してほしい。
- ・年に1回程度は三者面談を実施してほしい。
- ・今後、町田高校をどういうグランドデザインとして外に見せていきたいのか。ICTの先進的な活用などの特色を焦点化すべきではないか。
- ・応募者の減少については、どこが競合なのか、整理することが必要である。
- ・町田高校としてのブランドづくりを行い、情報をデザインして発信するなどの方策や、メディア戦略なども必要ではないか。
- ・生徒の評価は概ね宜しいかと思う。
- ・倍率が落ちているということが気になる。中学校の先生からヒヤリングはしているのか。
- ・ずいぶん町田高校のカラーが変わったためか。かつては勉強の町田だった。
- ・文武両道について、外部指導員の方が入っているのか。学校での充実感、満足感が、多幸感に繋がるので、勉強だけでなく、様々なことに挑戦してもらいたい。
- ・アンガーマネジメントなど勉強してもらって、子供と向き合った時に、傾聴することを心がけて欲しい。
- ・高校生は、将来やりたいことを決める時期であり、何になりたいかを見つけさせる時期である。大学に入ることが目標ではなく、何をするかをもっと考えさせるべきである。高校で生徒一人一人に対して、気付きをもたせるなど、醸成させてはどうかと考える。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・学校評価等を活用し、学校経営計画の教育活動の目標を多面的に評価し、改善に活かしていく。
- ・学校評価アンケートの回答率を高める。また、保護者の「分からない」という回答を減らす。
- ・保護者面談・三者面談を希望する保護者の要望を丁寧に聞き取り、対応する。
- ・働き方改革の校内の取組として、教職員の在校時間を縮減する。
- ・学校の情報発信力を強化する。ま、在校生保護者に向けた情報発信を工夫する。
- ・学校見学会・説明会の実施方法や時期・回数を検討し、内容を充実させる。授業公開の機会を拡大する。

(2) 学習指導

- ・生徒による授業アンケートの肯定割合を一層高め、組織的な授業改善を行う。
- ・観点別学習状況の評価を適正に行うなど、新しい学習指導要領を確実に実施する。
- ・教科を横断した課題の見える化に取り組む。
- ・科目ごとの課題の精選と縮減を図る。さらに、個々の生徒の状況に応じた課題の選択的付与を行う。
- ・カリキュラム・マネジメントを確立し、教育課程の編成、実施、評価、改善を計画的かつ組織的に進め、教育の質を高めていく。
- ・新型コロナウイルスの感染症対策と生徒の学びの保障を両立させるため、オンライン授業等を工夫する。

(3) 特別活動

- ・感染症対策を講じつつ、学校行事の公開範囲を広げる。また、生徒の主体的な行事運営を支える。
- ・東京都立大学との連携事業を継続・発展させる。
- ・海外語学研修の充実を図る。
- ・学習と特別活動（部活動・学校行事）の両立を推進する。

(4) 生活指導

- ・SNSに由来するトラブルの未然防止と早期発見に取り組む。
- ・2・3年生の遅刻者数の増加を抑える。
- ・いじめの未然防止に努める。また、体罰や暴言等のない指導を推進する。
- ・保護者面談・三者面談を希望する保護者の要望を丁寧に取り、対応する。

(5) 進路指導

- ・スマートフォンの使用時間が、自主学習を圧迫する一因となっている。
- ・模試分析会や個別ケース会議を充実させ、その機能を高めていく。
- ・最後まで第一志望をあきらめさせない指導に学校全体で取り組む。
- ・講習や補習、補充指導など組織的・計画的に行い、生徒のニーズに応える。
- ・「総合的な探究の時間」を組織的に運営するとともに、キャリア教育を充実させる。

(6) 保健指導

- ・特別支援教育に関する委員会を定期的で開催し、不登校や不応適生徒に関する情報を共有する。
- ・食物アレルギー等の研修を実施し、アレルギーを有する生徒への対応を確実に行う。